

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 水島エコワークス株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒712-8074 倉敷市水島川崎通1丁目14番5	
本票作成	部署名：技術部				
主たる業種	分類コード	88	業種名：廃棄物処理業		
事業の概要	倉敷市の一般廃棄物、水島コンビナート地区や岡山県内を主とした産業廃棄物を、ガス化溶融処理し、副生された精製合成ガスは、近隣の企業に販売している。				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	水島エコワークス株式会社		倉敷市水島川崎通1丁目14番5	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(令和元年度)	(令和4)年度排出量	目標年度(令和6年度)
	33,253 t CO ₂	44,858 t CO ₂	32,255 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和4)年度排出量
	①	水島エコワークス株式会社	44,858 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：令和2年度～令和6年度(5箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(4)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△56.2%	3.0%	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 温室効果ガス排出量(tCO ₂)/ごみ処理量(千t)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(4)年度	目標年度
		234.200 t CO ₂ /(千t)	365.900 t CO ₂ /(千t)	227.200 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和4年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

年間を通じて操業トラブルは発生しているが、2021年度の稼働率92.6%より、2022年度は93.7%に改善されている。
 2022年度の温室効果ガス排出量の増加原因は、JFEスチール殿の高炉の突発休風により、当社から発生するガスを引き取って貰えないため増加した。計画的な高炉の休風であれば事前に当社の炉を停止し対応している。

【推進体制】

- ・省エネルギー法に基づくエネルギー管理規程
- ・エネルギーの使用合理化に関する取り組みを、環境マネジメントシステムの取り組みの中で計画し4回/年のEMS会議で、計画、評価を実施、さらに毎月開催の月次会議で、状況の確認を実施。
- ・EMS内部監査 2022年11月21, 22日 EMS更新審査 2022年12月21, 22, 23日実施

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
水島エコワークス	<p>(令和4年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2号炉体耐火物補修工事(1/9~2/16) <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もさらに、精製合成ガスの回収率のアップ、LNGや電力の使用量の低減など省エネ活動を継続する。 ・EMS主要課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 原単位向上省エネルギー <ul style="list-style-type: none"> ①サーモガス回収率向上(高炉休風時のMEW定修同期+余力時の調整休止) ②2/3(1/3)炉操作時の環水ポンプ停止時間拡大 ③2/3(1/3)炉操作時の塩製造蒸気削減、ED電力削減 ④炉昇熱回数MIN化によるLNG削減

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

当社設備では、以下特徴を有する。

- ・廃棄物焼却炉で発生したガスは、クリーンアップし精製合成ガスとして、定状時には全量を近隣企業に販売している。
- ・すなわち燃焼に伴うガスを全量有効活用する環境に配慮した設備になっており、他の焼却炉のように焼却後の温室効果ガスを煙突から排出していない。

その他

- ・当社は2025年3月で事業終了となるため、目標達成のための大規模な設備投資は考えていない。